

第十五回通常総会 特別講演

日時：平成十七年六月二八日
場所：札幌市 共済ビル

北海道地域経済の活性化

北海道大学 経済学部 教授 濱田 康行

全農に就職

ご紹介いただきました濱田でございます。今日は「北海道経済」の話と「農業」の話ということで最初にご依頼を頂いたのですけれども、太田原先生を始め農業の専門家が大量おられる所で農業の話をするのはいかなものかと思えます。講演のタイトルはそうなっていますけれども、話の中心は最近の経済世界の話題とし、農業については話の終わりの方でちょっと触れたいと思います。

農業と言えば、私も実は青春時代は関係が無かったわけではございませんで、二二歳で大学を出て、今の全農、当時は全購連と全販

連に分かれています。全購連に就職しました。大手町農協、と当時は皮肉られていましたけれども、農協ビルに一年半位、二三歳までそこで暮しました。

なぜ農協に就職したのか。気がついたらあまり他の就職口が無くて、ふらふらと就職したというのが本当なのですが、行ってみたら太田原先生の同級生の方が私の上司で、彼はその後全農の専務理事になりました。私の同期で北大の農経を出た人が現在の東京支所長をやっています。そんなことで時々東京で時間があると農協ビルに行ったり、コープビルというのも少し離れた所がありますが、そこに行つて昔の仲間会っております。

濱田 康行（はまだ やすゆき） 氏

1948年 神奈川県横浜市生まれ
1970年 東北大学経済学部卒業
1980年 東北大学大学院博士課程修了（経済学博士）
現 在 北海道大学経済学部教授
2005年 京都大学寄附講座教授（併任）

著 書

共著「株式会社頭市場」平成2年、東洋経済新報社
単著「金融の原理」平成3年、北海道大学図書刊行会
共著「邦銀ロンドン支店」平成4年、東洋経済新報社
単著「日本のベンチャーキャピタル」平成8年、日本経済新聞社
翻訳「イングランド銀行の300年」平成8年、東洋経済新報社

農業との出会いといえは、何も知らないで農協の組織に入りまし
た。最初に三ヶ月くらい研修がありまして、千葉の農家に中国風に
言うところ下放されまして、朝五時くらいに起きて作業着を着て肥料を
担いだり動物に餌をやったりしました。農家にはなりたくないなど
思っていたところ、一年ちよつと経ったときに私の大学の先生から
君はサラリーマンに向かないから大学に戻っておいでという話にな
りました。戻ってじゃあ何を研究するかとなった時に、農業から遠
いものがないなと思って、当時の金融という世界に研究の焦点を定
めて、私の研究テーマは「銀行」ということになりました。

二六年前に北海道大学に赴任しました。地方都市の金融論の世界
で札幌が自慢できることは、東京・大阪・名古屋以外の地方都市で
都市銀行があったことです。九州大学の人たちに会うと「福岡、福
岡ってえらそうな顔をしているけれど、福岡は地方銀行だもんね」
というふうに自慢をしていたら、九七年にああいう事になって、私
もついに地方の金融の学者になってしまったのです。

国会に欠席！

さて私の経歴にも書きましたけれど、北海道大学に本籍はあるの
ですが四月から金融関係の講座の客員教授として、月に二回、京都
大学に行く事になりました。先週末から京都入りし、昨日の夜、関
西空港からの最終便に乗って帰ってくるつもりでした。実は今日の
朝九時から札幌で大事な用事がありました。この講演会も大事なの

ですが、もうちょっと次元の違うものがありました。今日の朝九時からプリンスホテルで郵政民営化法案の札幌公聴会があったのです。その四人の陳述人の一人に私が入っていました。昨日中に絶対に帰って来なければいけない。京都から飛行機に乗るといのは大変で、関西空港まで「はるか」というのに乗る。はるかに遠いし料金もはるかに高いのですけれども、飛行機に乗ってやれやれ。これでもって札幌に着くなと思っていたら、千歳上空まで来たらず霧で降りられませんか。当然、函館とか近くに降りるのだらうと思っていたら、関西空港に引き返しますと。もう頭が真っ白になりました。せめて羽田に降りてくれれば、早朝六時半の羽田便に乗ると九時に間に合いますと。えっ羽田じゃないんですか？と言ったら出発地に戻りますという。関西空港に戻ったのが夜の十一時半でした。あれは酷いんです。ホテルは勝手に取ってくれ。梅田あたりまではバスは出すけれども後は勝手にしてくれと。要するに飛行機は自己責任で乗るんですと、全然何もしてくれない。しょうがなくて関西空港に近接した最近出来た日航のホテルに行ったら、一泊八万三千円の部屋しか空いていないと言つのです。これまた仰天して、それはないだろうという話で、JALカードを出したり何だりしてごたごたしていたら、まあこういう時だからいいですと。八万三千円の部屋を一万六千円に大幅に割引してもらって、ようやくホテルに入ったのは十二時ぐらいでした。

それから衆議院事務局と連絡を取りました。国会議員の先生方ご

一行は昨日のうちに札幌に入っているのです。二階という自民党の代議士が郵政の特別委員会委員長。その委員長が議員さんをそろつと引き連れてきているのです。公聴会というのは国会法上はどこでやっても国会なのです。すべて国会のしきたりでやる。官庁というのは夜の十二時になっても人がいるんですね。衆議院事務局、総務省の役人に電話したらちゃんと出てきて、「それはえらいことになりました」と。それからあちこちに彼らも電話しまくって、私も電話しまくって。私が提案したのは、資料も全部揃っているし、せりふも全部書いてあるんだと。だから誰が行っても同じでも一五分なんだから、助教役にお願ひして行ってもらうから代読でよいかと言つたら、国会法違反ですと言われました。私は引き返す飛行機の中で必死になって原稿を作つて、誰かに読んでもらえれば多少は救いもあるかなと思つてやっていたのですが、それはだめと言つわけ。結局皆さんに本日お配りした資料は宙に浮いたのです（資料は略）。

郵政民営化

それではあんまり悔しい。悔しいというのは、国会の法案の参考人を私は何回かやったことがあります。実に膨大な資料を送ってくるのです。今度の郵政関連法案というのは全部で六つの法律から出来上がっています。会社を四つ作る。そのうちの二つは特殊会社ですから特殊会社の法案を作ります。例えば日本政策投資銀行というのは特殊会社ですから、そのための法律があるのと同じ。さらに

今回は持ち株会社を作ります。それも特殊会社です。それから全体の関連法案を全部いじくる。いじらなきゃいけない法案が銀行法、証取法から始まって、実に一〇〇くらいあるのです。送られた資料の一番最後に法案を成立させるにあたって修正を要する法案の一覧表が出てくるのですが、その法案だけで一〇〇くらいある。世の中にこんなに法律がいっぱいあったのかと目を丸くするほどなんですが、そういうものを全部送ってきます。それに一心、目を通して自分の意見を考える、それが参考人の役目です。

実はここだけの話ですが、自民党の中は今意見が割れているのです。地方はおおむね反対なのですが、中央にどうしても通したい人たちがいるのです。その片棒を担っているのが北海道選出の幹事長です。どうしても北海道民を代表するある人に公聴会に来てもらって、賛成だと言ってもらうシナリオがあったようです。だから全国でたった三つの公聴会開催地に札幌が入ったのです。北海道民を代表するある方が引き受けると言っていた二七日の夜になってドタキャンした。正にドタキャン。それで衆議院事務局はたまげた。参考人は各政党が推薦するのですが、実はどの政党が推薦したって発言内容には関係無いのです。何を言っても良いことになっているのですけれど、その人だけは自民党が推薦して、この人に地方公聴会で賛成意見を述べてもらおうと、かなり意味があるなという話にとつもなっていたらしい。

ドタキャンの背景には、北海道の自治体のかなりの部分が、郵政

民営化に反対だという市町村議会の決議をしていたという事実がある。勘定したらかなりの数です。恐らく六割くらいの市町村が議会で反対決議を上げています。そういうときに北海道を代表する方が行って、私は賛成だと言ったらえらいことになる、というふうになつてこの人がドタキャン。

法案の管轄官庁は総務省です。総務省の中に旧郵政省の一部が入っていますから。そこが追っかけまわしたらしいのですが、電話に出ない。秘書が出てひたすらご容赦をという話になった。その後の候補者探しても大変で、結局四人決まったのが金曜日の夜。金曜日の夜に決まってそれから法案を送りますと。研究室に送ったつて土日には届きませんから自宅に送ってくれとお願い。ダンボールに一箱届いた。しかし私は京都に行っているので居ないわけです。だからある人に主要な所を読んでもらった。しかし電話で聞いていたって法律の条文なんか頭に入りっこないでしょう。途中でもうだめだ。これは止めて、法律の要項をFAXで送ってもらった。国会議員さんの多くもはそれしか見ないのではないのでしょうか。法律案というのはみんな分厚い冊子ですから、とてもじゃないけれど一ページ目から読んでいったら一ページ半くらいで挫折するという代物なのです。普通の文章で書かれていれば良いんですけど、法律の条文というのは文章があると括弧があつて何々法何条に関してはこうするといつて、他の法律との関係が全部書かれています。です

からスローストとは読めない。私も要頂を読んで、要するにこちら辺が問題だということ事で、発言要旨を作ったのです。これは一五分で発言する資料ですが、今日はもう少し短く、せつかく二日間も暑い京都で作った資料なので、ちょっと皆さんに話題にさせていただきたいのです。

今日の夕方のニュースで二階委員長が札幌公聴会について記者会見をするそうです。公聴会というのは国会ですから全部議事録が残りますけれども、冒頭に委員長が「濱田康行君は所用により欠席」と記述が残るといのは、昔だったら切腹ものです。今ごろ家の掃除をして庭先をきれいにして明日の朝一〇時に切腹という段取りだと思ふのですね。

私がこの法案について気がついたことを書きました。今日のニュースになるし、マスコミは全部来ていたそうです。助教に聞いたら全員来ていましたという話でした。記者会見もやったというので、恐らく北海道のニュースでは映像になるし、天皇陛下がサイパンに行っていて、それがトップニュースになることは間違いないけど、その後のニュースぐらいにはなるかもしれません。

賛成 or 反対

私は欠席したのですけれどもその要旨をここで話します。総理大臣は、それから民営化を支持する人たちは、郵政だけではなくいろいろな組織を民営化しようとしています。我々の国立大学も民営化まで行かないけれども、国立大学法人になったわけです。今は民

営化の流れに乗っているのです。その時のスローガンはここに書いてあるように「民間に委ねられるものは民間で」、これが我が総理大臣の口癖です。このスローガンは分かり易いですね。民間で出来るものをなぜ国がやるのだと。皆これを言われると何となく黙って「そわか・・・」と思ふのです。

ところがこのスローガンはあまりにも単純すぎて実は問題だということ、議員さんに言っただけよいかと思つたのです。その四角の中に書きましたけれど、資本主義というのは営利を目的にする活動です。資本主義だから民間がやれないものというのは実はほとんどありません。やろうと思えば、大概のことはできるんです。三日前にNHKテレビを見た人は気がついたかもしれないけれど、イラク戦争をやっている人たちというのは、実は今は民間で雇われた人たちです。正規のアメリカ軍というのは後方にいます。日本の憲法上軍隊ではありませんが、やはり安全な所にいるでしょう。じゃあ本当に危ない所でやっているのは誰かということ、実は民間に雇われた人たちです。いわゆる傭兵なのです。へーっと思つた方もおられるかもしれません。人を雇って戦争をやらせるということ、人類はローマ時代からやっているのです。

第二次世界大戦みたいな総力戦になってくると違つたでしょうけれども、小競り合い程度というのは「民営」なのです。テレビ報道によれば一日一〇万円くらいになるらしい。死んでしまったとおぼしき日本人もどこかに雇われていた人ですよ。軍隊なんて国がや



るに決まっているじゃないか。私たちはそういう頭でいるんだけど、実はそうでもない。じゃあ警察・消防はとやかく言うけれども、警察にも民営が入っている国もあるようだ。消防についても、日本では消防団というのがありますね。江戸時代には「め組」とかがありました。あれは民営ボランティアです。公営で当たり前と想っていることも実は元々は民営なのです。それが歴史の本当です。ところが歴史の中で、民営でやってみると、やらせてみると、いろいろ具合の悪いことがおきる部門がありました。そこで資本主義のオール民営という当たり前の原則を部分的に修正して、そこに公的セクターや協同組合が出てきたのです。これが歴史の流れなのです。

だから民営でやれるものは民営でやれば良いじゃないかというのは、すごくわかりやすいスローガンだけれど、実は、なぜこの世の中に公的なセクターがあるのかという根本的な問題と歴史的な経緯を無視したものになっているのです。ここが問題だという気がします。議員の皆さんはその所に気がつくべきですよ、ということをおもうと思いました。

元プロレスラーの議員がいて、その人が私に質問するからという話でした。単純明快な人だから、単純な質問をするだろうかと予想しました。要するにおまえは賛成か反対なのかと聞かれたらどうしますかと。実は私は賛成とも反対とも言いたくないのです。郵政省にいったばい仲間もいるし、かといって北海道の金融業界にもいったばい友達もいるし、賛成しても具合が悪いし反対しても具合が悪い。

昔だったら私は国家公務員ですから中立でありますなんてことを言っておまかしたのですが。だからそれを聞かれたらどうしようかなと思つたのです。賛否を露骨に聞かれたら困るので北海道を代表するある方は来なかつたんでしよう。

IIの魂

だけど法案をよく読んでみたらある答えが見つかりました。今度の民営化法案というのは二つの魂を持っている。法律というのは、たいてい色々なアイデアがごちゃごちゃ入つてる折衷案なのです。今は郵政公社でやっている。元の郵政省よりは状況も少しは良くなつた。だから民営化すればもっと効率的になる。いろんな競争にさらされて、もっと良くなる。良くなるという事はより良いサービスを国民に安価に提供できるのだからいいじゃないか。こういう理屈です。これが民営化論の一つの柱なのです。

ところがもう一つの柱がある。今の郵政事業というのはもともと官営、そして今は公社。税金を払っていないだとか批判するけど、そついつことは些細なことだと思つたのです。官営であることによつて特権的な部分がある。それを民営にして自動的に引き剥がす。引き剥がすと当然これは弱る。弱つていつか市場原理の中で消滅していく。つまり消滅を狙っている人たちがこの法案に賛成する。こっちの方は郵政消滅論です。特に郵政事業の中で消滅を狙っているのは、貯金事業と保険事業です。貯金と保険という郵政がやっていた

事業をずっと目の上のたんこぶと見てきたのは大手の銀行と保険会社です。目の上のたんこぶを無くして欲しい。その為に民営化という手段を使おうという、民営化を通じて消滅を狙う魂が一つ入っているのです。民営化によつてより効率的なサービスを国民に提供させようという話と、消滅させちゃおうという二つの意図が混在している。私は前者なら賛成だけれども後者は反対ですよと言いたいのです。

北海道には一、二二〇局の郵便局がありますが、田舎の方に五〇〇局くらいあるんです。それらの多くが殆ど唯一の公的な建物、公的な役所である場合が多い。だからこれを消滅させてしまうということになると、北海道の田舎はけっこう大変。ですから北海道民の立場としては消滅論には組みせない。もっと効率的になつて残ってくださいね、という話にしかならないだろう。

どこかで郵貯消滅論、簡保消滅論という消滅論が、民営化論に変わってしまったんですね。そこで、いろんな問題が起きました。民営化したら当然民間の企業だから何をしてもいいわけです。自分の商売を自分で選べます。だから自由になるわけです。郵便局がコンビニになつたっていいし、貯金事業で株を売つたっていい。郵政公社の株をN.T.Tの時みたいに民間に放出する。放出した度合いに応じて自由度を高めてやろうというふうに法案には書いてある。それを説明したのが図一です。

私が解説用に作ったのです。縦に営業の自由度を取つて、政府出資率を一〇〇%から〇%にして、だんだん放出していくわけです。

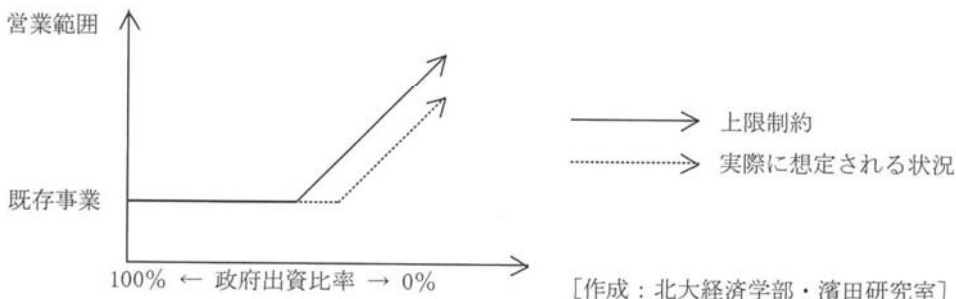


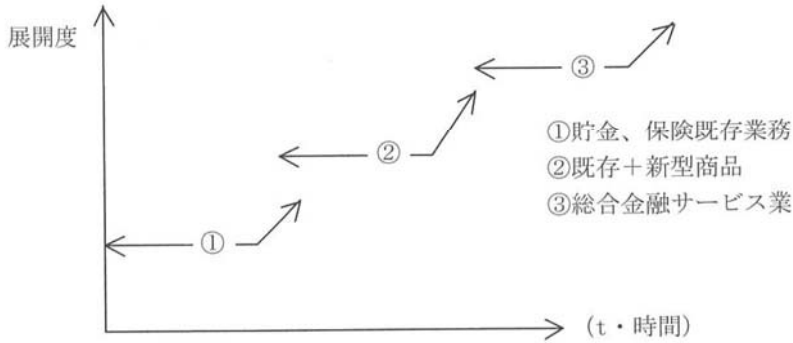
図1 政府出資比率と営業範囲

おおよそ七兆円と言われています。郵政会社の株をうまく売って七兆円。一兆円という人もいますが、もっと高いという人もいます。どんどん売って行っていくけれど途中までは政府の株が残っていますから今までの仕事しかさせないよ。だんだん売っていくと民間に近づいていきます。途中から四五度線になっていますよね。民間に近づいていったらそれを上限にして新規事業を認めてやろう。こういうシナリオになっているのです。

ところがこれがいかにも竹中流なのね。近代経済学でこういう図ばかり書いているからこういう話にはまる。一見合理的に見える。営業範囲を広げると自由度というのが四五度線の上に乗っかっていくんだから。近代経済学の教科書によくある図です。ところがこれは実際の経営から離れた机上の理論なのです。それを説明してみましよう。

「事業展開のモデル」図2を見て下さい。

皆さんが商売や会社をやる時にはそうですが、色々な事業を展開します。横軸に時間を取っておきます。会社が始まった時①最初のビジネスをやります。そして最初のビジネスで固めていったんだんそれで成長します。だから終わりの方で矢印が上がっているでしょう。ところがこのビジネスではもう次のステージに到達できないというところに至って、いわゆるイノベーションを起して、次のビジネスを獲得して②に移るのです。だから①と②の間に断絶があり、これをつなぐのが、シウンペーターの言っイノベーションです。



[作成：北大経済学部・濱田研究室]

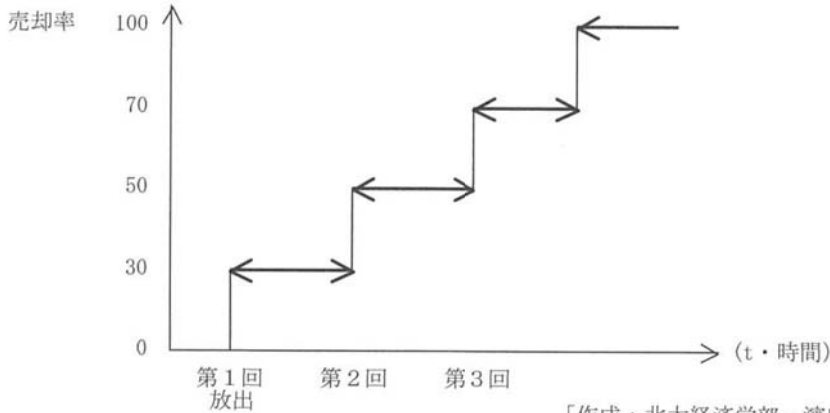
図2 事業展開のモデル

これが無いと企業は成長出来ない。同じビジネスで100年という老舗型というものもありますけれども、ソニーを見たってホンダを見たって、こういうステップで成長していきます。

今度②のステップに入ります。そうすると②のステップを固めて成長していくと限界にぶつかります。そこで今度またイノベーションが起きて③ステップに移っていく。

貯金とか保険の事業について言えば、今ある貯金・保険事業をやります。次に新製品を売ります。総合金融サービス業みたいなものに脱皮していく、という方向に民営会社は進んでいくはずですよ。ところが大事なことは、①のステージの時に②を考慮しておく。そして遥かに③も展望しておくということじゃないと経営はうまく行かないのです。②の条件が出てきたらおつとりがたなで②を考慮して、③の条件が出てきたらおつとりがたなで③を考慮して、なんてやっていたら経営というのは負けます。官営と違って競争相手がいるのですから。

ホンダの例というのは書きました。皆さんご承知のようにホンダというのは二輪車から始まりました。ただ二輪車を作っている時に、ある段階でもう軽四輪に出ようということとは決めていました。だから二輪車を作りながらその技術でもって軽四輪を作っていたらどうなるかということ、つまり①のステージで②を準備していたのです。技術や人や市場対応や資金ということを全部考えていくのです。そしてある時②に決断して移ります。だけと移った時には軽四輪で終わるなんて考えていなくて、普通乗用車に進出するとい



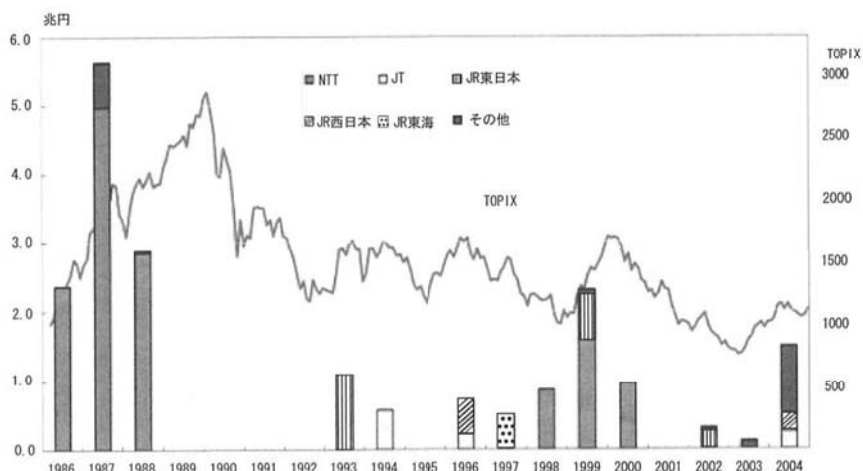
[作成：北大経済学部・濱田研究室]

図3 株式売却（対民間）のモデル

うことを展望していた。後にシビックという名車が誕生します。だからある条件が来たらゆっくり考えましよう、なんていう企業は全然だめ。もちろんこのステップは失敗する可能性もあります。②から③にいくときにつまりすいちゃう。ソニーがビデオのベーターマックスでVHSにやられた。そういうことはある。だけどそれが企業のリスクなのです。要するに条件が整ったらゆっくりやりましよう、では競争に勝てません。

ところが図3を見てください。株式の売却というのはどうやるかというと、これはNTTの時にやりました。NTTは今年中に最後の放出をして民間会社になることになっている。しかしこの株価水準では出来ません。売却は、第一回放出、第二回放出と順にやっていく。これが理想形です。ところがごっちは経営のようには行きません。経営というのは経営側が考えることですが、株の放出というのは買ってくれる人が必要です。だから買ってくれる人のことを考えなくてはだめ。だからモデルというのは実は絵に描いたもちで、このとおりになるなんて事はありません。株式市場の具合の悪い時は売れません。それはそつでしよう。国という最大の持ち株者が大量に株を売ったらどうなりますか。価格は暴落しますよ。そういうふうには出来ないでしよう。価格が下がってしまったら、入ってくるお金が少なくなります。

民営化の最大の利益とは何かというと、株を売ってお金にすることです。全部売って何兆円になって、その何兆円が国の膨大な赤字



[資料：東京証券取引所 作成：野村證券]

図4 民営化関連株式の売却動向

の補填に少しでも役立つというのが民営化のメリットです。民営にするというのはそういうことなのです。だから株を売るのとはとても大きなことです。

ところが株はそう簡単には売れませんよというのを示したのが、図4です。

これは日本の東証株価指数・TOPIXと、過去に民営化したNTT・JT・JR系の売却株式額を示したグラフです。TOPIXの動きを見てください。八九年に日本の株価は歴史的な高値をつけます。いわゆる四万円すれすれ。今から見れば奇跡のような株価が一六年も前にありました。そこをピークにがたがたと株価は下がりました。下がった時には一回も放出は出来ませんでした。出来ないでしょう。今度二〇〇〇年、いわゆる証券経済をやっている人は、二〇〇〇年ミニバブルと言います。新規公開が相次いでITブームになり、株価が一時二万円をつけた。二〇〇〇年の時に向かつては放出はあったのですが、ITバブルが壊れた時にはやはり売っていません。株式を売るといふのはなかなか難しい。ですから株が売れたら新規事業をやらせてやるぞ、というカラ手法では民間会社はやってられません。民営化しても何だかんだとがをはめる、というのは資本主義的自由に反します。あなたたちの政党は自由民主党じゃなかったんですか。そんなオチでお終いにしようと思っていただけ。今日は出来なかった。というわけで、少し胸のつかえが落ちたので本題にしましょう。

景気ウォッチャー

今日の様子を見ていると郵政関連法案もどうなるかわかりません。無理やりやってみようかという気もするけど、だいぶ顔が引きつってきたものね。飛行機の中で朝六時のニュースを見ていて、ひよっとしたら昨日の霧は私にはラッキーだったのかなと思いましたが、賛成だ反対だと言ってしまうと、後で北海道に住みにくくなることもなくて、切腹もしなくて良かったし、日本航空ありがとう！

さて北海道経済の話をししましょう。私は内閣府という大それた役所と最初から仕事をしていたわけではなく、最初は経済企画庁という官庁でした。経済企画庁という官庁はなくなっていました。最後の大臣は堺屋太一さんで、彼を最後に内閣府の中に統合されてなくなりました。今やそんな官庁があったかなという感じなのですが、この官庁が一九九九年に、統計としては二〇〇〇年から、「景気ウォッチャー調査」というのを始めました。私は、これは光栄なことだと思っているのですが、景気ウォッチャー調査の最初の委員で今でも続いています。発案者の一人ということになっているので今でもやらせて頂いています。景気ウォッチャー調査というのは皆さん馴染みが無いと思いますが、毎月、北海道新聞でも他の新聞でも、一〇日頃に「街角景気」という見出しで報道されるものです。

当時の堺屋長官は、政府の統計は遅すぎる。六ヶ月も経ってから「半年前はああでした」という話を聞いたってしょうがない。どう

にかならないのかと。それからもう一つ堺屋長官が不満を漏らしたことがあります。堺屋長官よりちょっと前ですが船田元氏が経済企画庁長官をやっていたことがありました。当時は経済企画庁が景気の山を過ぎたとか谷を脱したという景況判断をやることになっていました。経済企画庁長官が閣議に出して了承される。そうするといわゆる景気回復宣言ということになったのです。船田氏が経済企画庁長官の時に景気回復宣言を出したのです。すると日本中から、冗談じゃない、こんな景気が悪いのにどこを見て言っているんだ、非難轟々になって、閣議で口頭で訂正したという珍事があった。そのことが経済企画庁にすごい教訓になっていて、我々が集めてくる統計は庶民性がない、という反省が内部にあった。地方では不況だと言っているぞ。何故こういう事になったんだというので、もっと庶民性を入れた景気調査をやれ。私を含めた何人かにご下問があった。そこで考えました。当時の経済企画庁の課長さんと、すすきの薄暗い所でお酒を飲みながら何か良い方法はないかなと。

その時に思いついた。世の中である現象が起きると、それがたちどころにわかるというものがあります。何だと思えますか。地震情報です。地震情報というのはライターを見ていてもお笑い番組を見ていると、今何とか地方で何時何分頃地震がありましたとすぐ出ます。あれは三分ぐらいしかかかっていません。震度が出るのは五分後くらいです。なぜそれが出来るかというところ、全国に何万箇所という地震計が埋め込んであるのです。それが全部各地の気象台等々に

繋がっていて情報が集まりますから、あつという間に状況が把握できる。あんなことは経済現象では無理にしても、もう少しあれに近いものはないのか。そこで閃いた。なぜ景気調査が遅くなるかというと、まず経済企画庁がやろうと言う。霞ヶ関から都道府県にやろうと言う。都道府県が各市町村にやろうと言う。市町村の情報が県に集まる。県が集まった所で国に集める。こういうふうに行っているのです。そんなことをしていたら時間がかかるに決まっている。直接全国に地震計を埋め込んでおいて、ばつと景気の場合がわかるようなものをやっちゃおう。どつするかというと、人に聞くのが一番だ。仕事を通じて景気の判断が出来る人。自分の仕事の範囲です。そういう人を全国に何千人か選んで、その人たちに一種の景気地震計になってもらって、一ヶ月に一度電話で聞く。どうですか。あなたの仕事を通じてどうですか、というふうに聞く。それをばつと集計する。こつやれば早くなる。こういう発想で景気ウオッチャーという人を選ぶという話になりました。

今までだと役所の担当者とかそういう人に聞いていたのですが、そうじゃなくてタクシーの運転手さんとか美容院の経営者だとかコンビニの店長だとか、そういう経済の一番先端にいる人たち。なんとなく仕事で景気をわかる人たち。そういう人たちを選びましょう。すずすずの“で思いついたので、すずすずの”のスナックのママさんも入れよう。スナックにもいろいろあるという話になって、じゃあ高級なスナックと高級でないスナックの両方を入れよう。半

ばぶざけたような話に聞こえますが真面目です。現在は全国で二、五〇〇人景気ウオッチャーさんがいます。その人たちに月末に電話で、今はインターネットも使えますが、いくつかの質問をしてボタンを押してもらおうのです。三ヶ月前と比べて今が良くなった。大変良くなったら五番、少し良くなったら四番。こういうふうに行って、全然良くないという人は一番を押してください。五番を押した人は一〇〇点、一番を押した人は〇点。一五点刻みだと五〇点は真中になりますね。変わらないと答えた人は五〇点が出ます。

押したボタンを全部集計して回答者の人数で割る。これで景気を判定しましょう。簡単でしょう。私みたいに微分・積分がわからなくてもこれなら分かる。要するに集めて割ればいいんだと。簡単！これで行こうよ。結構これが受けて、今日まで続いている。これが景気ウオッチャー調査の正体です。

問題は地震計の精度、あんまり精度が良すぎてもだめなんです。日経新聞を隅から隅まで読むような人はかえってダメ。私みたいな商売をやっていて、ある予断の入っている人もダメ。比較的に普通の人で、だけど仕事は真つ直ぐやっている。自分の仕事の世界で景気の判断が出来る。そういう人を各地のシンクタンクに選んでもらう。この景気ウオッチャーさんになっていただいています。堺屋太一さんは結構うまい字を書きます。毛筆の辞令が届く。あまり予算をかけないということなので、ひと月五千円の図書券というすずすずの報酬が支払われる。それが今でも続いている。それでご覧いただきました

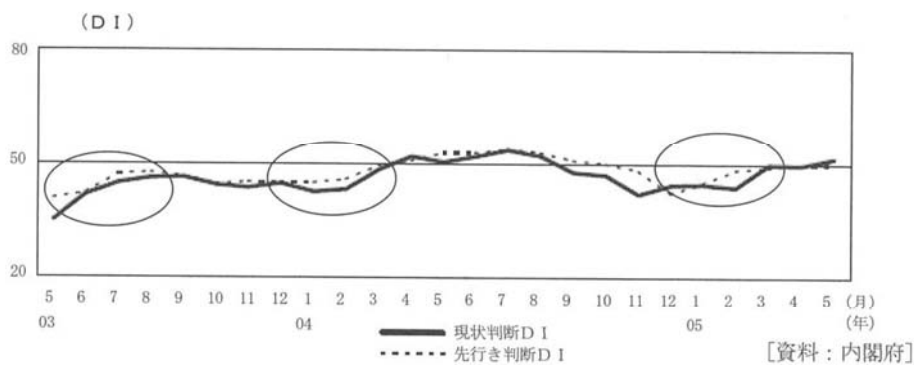


図5 現状・先行き判断D Iの推移（北海道）

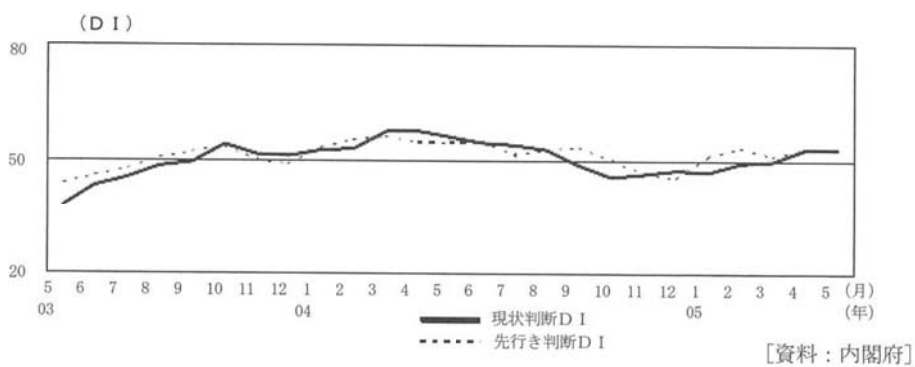


図6 現状・先行き判断D Iの推移（東海）

いのが、「景気ウォッチャー調査にみる北海道経済」です。

北海道経済

図中の真中の線が五〇点です。図5は北海道。北海道の〇三年から〇五年の五月まで。この調査の素晴らしい所は、六月に五月の数字がもつ出てくることです。このように調査は他にはありません。すこく早いのです。北海道と東海を比べてあります。北海道はずっと五〇点以下です。五〇点以下。そして〇四年の四月と三月の間に五〇点の上にちょっと顔を出しています。そういえば去年の今ごろ景気が良くなっていたな、そういう雰囲気があった。ちよいと顔を出したけれど、残念ながら秋風とともに五〇点を割り込んで、以来低迷を続けてきて今に至っている。今年の五月の数字がちょっと良かったけれど、ここからどうなるかが北海道の問題です。

次に図6の東海を見ましょう。そうするとまず気がつくのが、五〇点の方が長いこと。東海は〇三年の九月くらいに頭を出して、浮き沈みは若干あるものの、〇四年の九月くらいまで五〇点の上に出ています。

これがいわゆる「ジャンボの後輪、北海道」という話です。飛行機はジャンボジェット機じゃなくてもみんなそうです。離陸する時はまず首が上がって前輪が離れますよね。そして一番最後に地面から離れるのは後輪です。だから景気が良くなる時は一番最後になる。逆に着陸する時は頭を持ち上げて後輪から降りてくるでしょう。

このあいだ、前輪から降りてパンクしたという話がありましたけれど、あれは恐らく降り方を間違えて前輪に圧力がかかったのだらう。要するに、着地する時、景気が悪くなる時は最初、離陸の時は最後。北海道経済についてもそうですよね、というので「ジャンボの後輪」(注1)と言っているのです。図5には「ジャンボの後輪」がよく示されている。実は着地は今回は一緒だったけれど離陸が遅れている。北海道は五〇点の上に出るといっても、ほんのちょっと水面に出たか出ないかという感じ。東海の方は幅があります。計算の好きな人はこの面積を積分を使って計算します。面積比を出してどうのこうのと。だれど面積なんか出さなくても見ればわかる。北海道の上の面積はちょっとしかなくて東海は広いでしょう。日本の景気が回復したと言っても、実は地域によって相当差があるということが分かります。これが最近の景気循環の特徴です。少し前までは、なんだかんだといっても東京が良くなるとみんな少し遅れて良くなったものなのですが、最近はそうじゃない。置いて行かれる地域というのがある。

二つの図の中に実線と点線があります。実線は三カ月前と比べて今はどうですかと聞いています。点線は今と比べて三カ月後はどうですかと予想を聞いている。実はこの質問には少し問題があります。先の事なんか分かりっこないから。三カ月後はどうなりますかと言ったって、そんなこと分からない。ただと実はここには仕掛けがあって、三カ月後のことを聞かれると人の期待が入るのです。中に

は根暗な人がいて先のことを聞かれるといつも悪く言う人もいるかもしれないけれど、普通は期待が入ります。だから点線は期待線です。実線は現実なのです。自分の目の前にある現実を判断している。そこで注目。北海道は点線のほうが上にあるほうが長い。重なっているところもあるけれど、点線の方がやや上にあるでしょう。北海道の人は、現実の景気が悪い分、いつも期待は大きいんです。ところが東海を見てください。二つの線が交錯しています。やはりこれは自信の現れですね。

北国の春

更に北海道ではある現象がおきます。図5で私が丸で囲んだところが三ヶ所あります。丸で囲んだところが実線と点線が遊離している場所です。他にもあるけれど一応三ヶ所に丸をつけました。そうすると〇三年の五月の前が遊離しています。三、四、五月のところに本当は丸をつけなさいけない。〇四年の二、三、三月のところ。〇五年の二、三、三月位の所。気がつきましたか。春ですよ、春、いずれも一、二、三、三月の周辺です。胸に手を当てて考えてみましょう。一月や二月に景気ウォッチャーになって聞かれるわけです。今はどう？今は良くないな。そして三カ月後はどうですか？と聞かれる。二月に聞かれたら三ヶ月後はああ五月だなと思うでしょう。そうするとはいくら何でも五月になったらいよいよと答える。こういう現象が起きているのが分かる。これを「北国の春」と言います。す

ごいでしょう、これは。おおーそうなんだと。政治をやる人にはこれを大事にしてもらいたい。人々の期待が季節にちゃんと現れます。図7と図8を見てください。

図7は全国の数字と大都市圏を抱えている地域のグラフ。図8は全国の線と北国の三つの地域、北海道、東北、北陸。つまり雪国を並べました。まず図7を見て下さい。太い線が全国平均です。全国平均より大都市圏は上のほうにあるでしょう。下の方にも出ているじゃないかという人はあまのじゃくです。統計というのは全体として大体そうなっていればいいんだから。やはり上のほうに出ているでしょう。今度その印象を残して図8を見てください。雪国の方は下のほうにある。つまり日本の景気が良くなった、五〇点の上に出たぞと言っても、実は大都市圏景気なのです。北の方は置いてかれています。四国も実はそうですが、四国には北国の春はない。四国に住んでいたら寒さに耐えてやっとなんて思わないんです。ずっと春みたいなものだから。だから九州にも「北国の春」はない。北陸を調べてみたらやはり出ている。東北も出ています。今年みたいに冬の厳しい時はしっかり出ます。だから全国の景気が良くなったというのは、平均値でそういう話になっている。景気ウォッチャー調査というのは各地の調査をちゃんとやりますから庶民性がきちんと取れる。人々の気持ちが取れる。単純だけと意味ある調査だと思っています。

それでは次の疑問です。講演や講義を聴いていて、次の疑問が湧

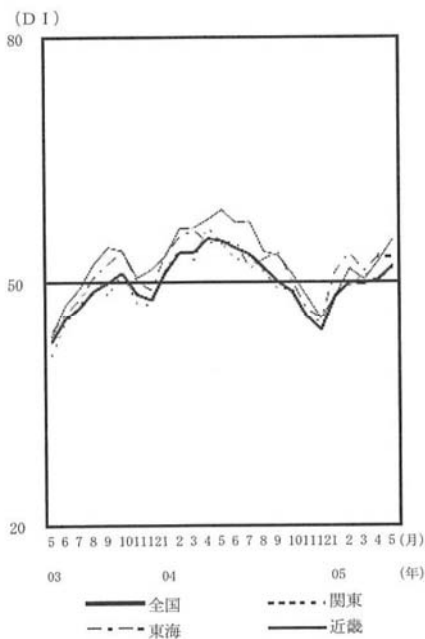
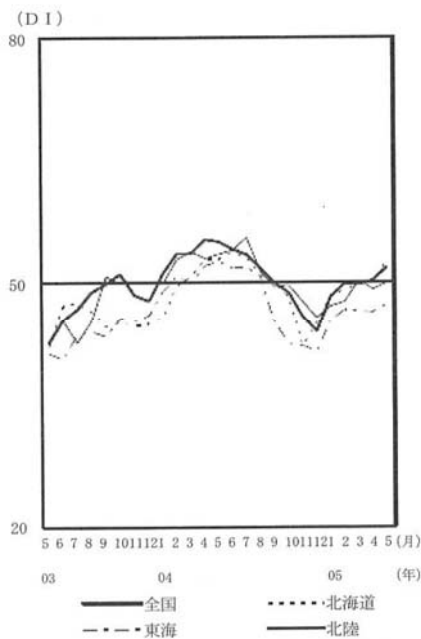


図7 地域別D I (各分野計) (大都市圏)



[資料：内閣府]

図8 地域別D I (各分野計) (地方圏I)

かない人はだめなんです。図を見ました。日本の景気が良いといっ
ても大都市圏だ。雪国地方なんか置いて行かれてるんだという話
をした。次の質問は決まっているでしょう。じゃなぜ大都市圏だ
けがいいの？こういう質問が帰ってこないと講師はやつてられない
ところで上がる株は何ですかなんていう質問がこういうところで出
るともうだめなんです。

東京景気

なぜ大都市圏なの？三つ理由があります。講演の席では三つ。そ
れ以上は人間は覚えられません。本当に三つ主要なのがあるんです
ます中国輸出。中国に関連する輸出基地、輸出産業があるところは
どこですか。典型なのはさっき示した東海地方です。だってトヨタ
だもの。自動車関連だもの。それから設備投資関連、これは近畿と
か関東の一部、それから九州は大分県の周辺。東北は福島県など
にあります。九州の熊本もそうです。そういう地域以外は恩恵にあず
からない。中国輸出に関連する日本の工業地帯というのはどこにあ
るかというのを調べて行けばよい。北海道にはありません。東北では
南東北にあります。北東北にはありません。だから東北六県でみる
と、北三県と南三県で分けて統計を取った方がいい。

設備投資といっても範囲は膨大ですが、やはり一番大きいのは一
T、プラズマ、携帯電話関連投資です。北海道でそういう産業は
あるのかと言ったら、この周辺にはソフト系の会社はあるけれど、

表1 公示価格（対前年比）上昇地点（数）（商業地）

	2003	2004	2005
東京圏	39	52	148
大阪圏	0	0	22
名古屋圏	1	11	36
札幌市	0	0	9
福岡市	0	1	3

【作成：北大経済学部・濱田研究室】

設備投資を必要とするようなIT産業というのはあまりない。これが大都市好況の二大要因ですが、もう一つあります。実はこれが効いているんです。それは非常に原始的な話だけれど地価です。地価の値段。表1を見てください。

地価については、公示価格、路線価とかいろいろある。不動産会社の方は詳しいと思いますが、よく使われるのは公示地価。全国をいくつかのポイントに分けて区画で切って前年比でいへる上がった、下がったと調べる。二〇〇三年から二〇〇五年の三年間、前年比で

上がったポイントを数えます。東京では既に地価は上がっている。これは皆さんご承知のとおりです。

今日の飛行機の中で、とにかく私は二往復して大阪から来たのであらゆる新聞を読みました。それで見たら大阪の中心部の高層マンションもやはり売れているそうです。今年になってから全部で二、五〇〇戸売れた。だから大阪も上がり始めている。大阪は二〇〇三年二〇〇四年はゼロだったのが二〇〇五年になったらぐっと数字が出てきて、二二ヶ所が上がっている。これは中心部です。東京は先行して二〇〇五年には一四八ヶ所上がっている。これは何月かの統計だから、一年間で取ってみればもっと増えるでしょう。名古屋も上がってきている。地価の値段がどうやら戻りつつある。住宅地に関してはあまり上がっていないけれど、商業地、つまり町の真中の部分では上がってきている。

そうするとこの影響が一番最初に出るのは何かな？これが次の質問です。商業地が上がっているよ。これが何に現れるかな？ここからはインスピレーションです。そういうところの土地を一番たくさんもっている個人はあまりいない。真中は会社が持っている。上がりそうな大都市の真中の土地をもっている会社の株価が上がるだろう、と考えられる人はセンスがよろしいのです。

そこで、図9と図10を見てみましょう。これは三井不動産と三菱地所の株価グラフです。その株価なのです。三井不動産は二〇〇三年位からじわじわ上がって、二〇〇〇円に近づいたのが二〇〇三年

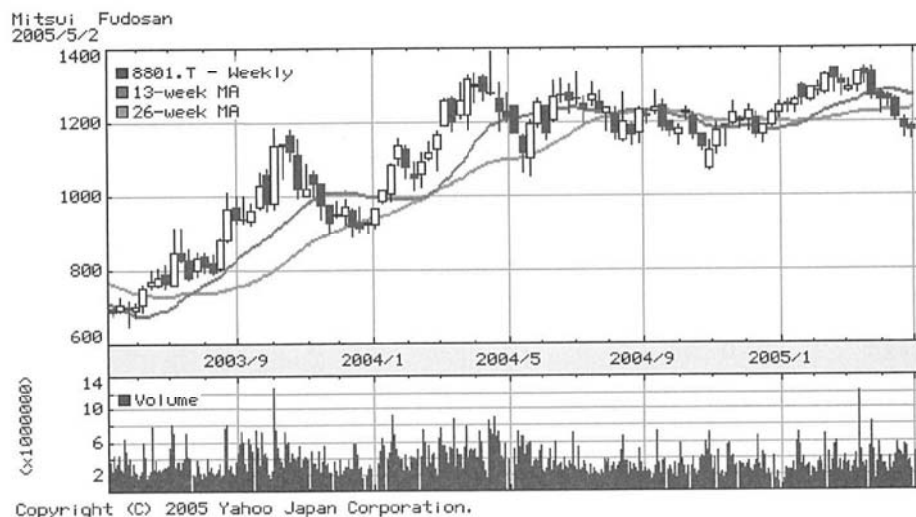


図9 三井不動産 株価グラフ (出典：Yahoo! ファイナンス)



図10 三菱地所 株価グラフ (出典：Yahoo! ファイナンス)

の九月。二〇〇四年の一月くらいに一目谷を作って、そこから上がり始める。二〇〇四年の五月くらいに一回下がっているけれどもここからは株価としては高原状態。三菱地所の株もほぼ同じに動いているでしょう。見て欲しいのは、二〇〇三年の九月の後にピークをつけて下がって、また上がっている。このイメージを持ってもう一度図7を見てください。そうすると二〇〇三年の八、九月くらいまで一度上がって行って、そこをピークにして下がっている。一回下がって、また上がっている。同じ格好をしているでしょう。この同じ格好というのは大変価値があるのです。

景気ウォッチャーというのはコンビニの店長からスナックのママさん、そういう人を集めて、皆さんに景気がいいですか悪いですかと聞いています。それで作ったグラフです。

もう一方はある二つの会社の株価のグラフです。ニュースソースというか調査源が重なっていないでしょう。重なっていないものから調べていったら、同じ型のグラフが出来た。ここが調査の値打ちなんです。

こういうのをやったときに我々はやったやったと思って、よしこれで論文を書いちゃおうという話になります。この話の後ろ側にあるのは、地価が今回の景気回復にものを言ったということでしょう。日本を代表する二つの不動産会社の株価のグラフと景気ウォッチャーグラフの型が一緒なのです。その後の格好は違いますよ。それはそれで説明できる。証券市場には証券市場独自の要因があって

動くのです。株価の場合には日本の金余り現象が影響します。

何だそういう話だったら二〇〇三年の四月くらいに教えてくれれば良かったのにとなるのですが、二〇〇三年の四月頃にこんなことが分かっていたら、皆さんの前では話さないのですよ。密かに買って黙っている、太田原先生ぐらいにちょっとだけ教えてあげようかな。こういうのは全て後から分かる。後から分かるから学者はいつになっても金持ちにはなりません。

公共投資

以上の要因に加えて北海道が苦しんでいるのは、やはり公共投資の縮減ですね。公共投資はピーク一兆円と言われていましたが、今年あたりで七、五〇〇億円くらい。私たちが計算したら、この六年間に北海道の公共投資は一兆二、〇〇〇億円減りました。六年間で一兆二、〇〇〇億円というのはかなり効きます。国土交通省の仕事もやっているのですが、東京には私たち北海道人に「いつまでも公共投資に依存するんじゃない。いいかげんに自立しろ」なんて偉そうなことを言う人がいます。自立の努力はしているけれど、公共投資を一律に削減すると、公共投資に依存度の高い所、北海道で言えば東の方、北の方、そういう所を直撃します。町のGDPの四〇%位が公共投資関連だという町が北海道にはたくさんあります。そういう所で二〇%削減すると、東京みたいな大きな町で公共投資の比率が数%しかない所で削減するのは、全然インパクトが違うんです。



ところがそういう理屈はなかなか通りません。私たちが公共投資の削減をこれ以上やると北海道のある町なんかは人が住まなくなっちゃうぞ、それは国土政策上問題があるんじゃないの。今まで税金を取ってにおいて、日本の国に住んでいる日本国民には、一定のインフラと一定の生活を保障というのが国土政策のはずなのに、そんなど田舎に住んでいるおまえが悪いという話になりつつある。それはちよつと問題だよ、と主張はしていますが、なかなかその理屈は通りません。

でも、この理屈は正論だと思っています。北海道は日本の領土でしょう。日本の国土に日本人が住むということに関して、日本国というのは一定のことをする責任がある。お前が勝手にそんな所に行ったのだから電気なんかはないよ。そういう話じゃあ困る。そうじゃないということにしたから、これだけ国土に人が万遍なく住んだ。もう皆引き上げてこいというなら、これは政策の変更だ。しかし、国の会議でそういうことばかり言っていると発言の機会が回ってこないんです。座長が指名しないわけ。それは作戦上まずいからちよつと気の利いたことを言わなければいけない。

三本柱

そこで北海道の三本柱は色々あるけれど次の三つ、第一次産業と観光とニュービジネスだということになるだろう。これは大体誰でも皆ごう言っています。ある所で農業だと言ったら、水産業の人が

いて怒られたので、それ以来、第一次産業と云うことにしています。漁連に講演に行つてうっかり農業だと言つてしまつて、後で「先生、漁業つて言つて下さいよ」と言われました。

三つ並べて、並列のような言い方をしても、やはりだめ。それぞれ主張する根拠立てと云うか、こうだから北海道の第一次産業は大事だぞと云ふに言わなけりやいけない。じゃあ何で九州の第一次産業は大事じゃないのかと、すぐに噛み付かれますから。東京で会議をやつてゐるとおもつてゐるのです。ある意味で地域工場のぶつけ合いで、それをいかにもエゴイズムでないように学問的に言つのです。

農業は別に北海道だけではなくて全国どこでもやつていても宜しいし、おしなべて重要であると思います。しかし北海道の場合には一段と重要であります、と主張します。なぜと云うと、それは食料自給率という問題であります、と。こつこつ方向に持つていくのです。カロリーベースというのは何か怪しいと、この前ある人に言われたのですが、自給率の計算というのは色々あります。だつと一番良く使われているのはカロリーベースです。四〇%の自給率なのに東京では食べ物を一五〇万食捨てています。あちこちでパーティーをやり、大半の料理は残して捨てる。それを拾いに行つて食べているホームレスの人が、脂肪肝になつたり糖尿病になつたりしてしまつていふ副作用が出てゐるらしい。

北海道は一九〇%と云う日本最高の食料自給率を持っています。そつこつ意味では、高い自給率を持つてゐるところが、日本全体の

食料自給率を高めるべく先頭を切つてやるべきだろう。よそに比べるど効率の良い農業を持つてゐるからだと言張ります。いつまでも外国のものを食べていて、このまま食料自給率が下がつていくのは放置できないでしょう。じゃあどこからやつていきますか。中で一番可能性のあるのは北海道じゃないですか。農業はおしなべて大事です。ここに北海道の農業は大事なのです。北海道はがんばらなきゃいけませんよ。ところがちよつと勉強をしてみたら、北海道の農業にも色々問題はありそつです。それは後で言います。

一番目の観光。北海道が責められるもつと一つの要因は、北海道の赤字です。津軽海峡で収支を取るといふ域際収支といふよく分からない概念があります。何で国の中で収支を取らなけりやいけないだ、思つのですが、とにかく津軽海峡を国境だといふことにして計算すると、確かに二兆円赤字なんです。昔からこれは言われています。北海道庁の方がずつと計算されてた。いろいろ議論をしてゐるところをいつも突かれる。九州なんか威張つてゐますからね。黒字のかな九州は。四国は赤字だと言います。赤字の所はいつもこれでやられるんです。親からいつまでも小遣いを買つてゐる子どもと同じだと言われるのです。まあ小遣いも二兆円となれば大変なものですから。

そこで手っ取り早くこの域際収支を良くする方法といふのを考えなければならぬ。この場合には手っ取り早くといふのが課題です。観光といふのはあまり投資をしなくても良いわけです。むしろあまり投資をしない方が良いというのが北海道の観光です。摩周湖の周

辺に丁タ丁タ投資をして、ホテルをたくさん建てたらダメになってしまう。北海道の観光というのはどちらかというといわゆるナチュラル形です。自然景観系でしょう。自然景観系だったけれど、人口景観を加味して成功した例、湯布院のような例もあります。自然景観系だということになるとあまり投資をしなくていいんです。投資をしないで、頭や工夫ということでもう少し稼げそうな分野はやはり観光です。

北海道の観光はどう考えてもあまり上手じゃありません。最近温泉ホテルの値段が激安になって、それをインターネットで見つけて、ゼミ旅行へ行く。どこへ行くかは決めないんです。とにかく一泊、泊まれるように歯ブラシだけ、歯ブラシもいらないうか。ゼミが終わったらかこかへ旅行に行くからなと。ホテルを決めないでゼミをやっている間、一人の学生にインターネットをずっと見させておくんです。そうすると午後三時を過ぎると激安価格が出ます。本日のみ。そりゃあそうでしょう。ホテルにしてみれば空けておいても仕方がないんだから。午後三時を過ぎたらもう客は来ないんです。三時過ぎに温泉ホテルにこれから行くぞというのは、ちょっと訳ありのリップとかね、そういう人が行くわけで、団体様は来ないから激安パックが三時過ぎに出ると、それと予約する。定山溪のホテルというのはマイクロボスで迎えに来てくれます。一食で五、〇〇〇円とかね。下手をすると家にいるよりも安い。

ただとそういうことをしていたのでは観光で稼ぐということには

なりません。もう少し皆さんがお金を使ってくれるような、そういう工夫のある観光に持っていけないとダメです。それでよく言われているのが、長期滞在型だと体験型、エコツーリズム。あちこちで実験が始まっています。時代に合ったレベルの質の高い観光を考えなければダメということですよ。

それと北海道の観光で考えなければならぬのが外国人対応です。統計を取ってみると、皆さんもご承知ですが、北海道に来ている外国人観光客というのはアジア人が中心です。韓国・中国・台湾、この三つの国の人たちにJTBがアンケートをして行きたい所はどこですかと聞くと、一番は東京です。それは私達がイギリスのアンケートで行きたい所はどこですかと聞かれても、ロンドンしか知らないもの。東京の次は、ちょっと気の利いた人は京都といえます。そして三番目に北海道です。三番目が千葉県というのもあります。なぜ千葉県かということディスプレイランドです。あれは千葉県にあります。そういうええぞうだ。だから北海道というのは潜在的には外国人が来たい所なのです。

ところが来た時にいろいろ問題がある。韓国の人が来ると、お風呂の入り方が違います。日本人はタオルをこう使ったりするけれど、そうじゃないとかね。いろいろな問題があって、登別なんかで聞いてみると、軋轢がおきているようです。何とかしないといけない。修学旅行のようにフロアを分ける？でもそれだったら観光の意味は半減します。外国に観光に行くということは、その国の人と触れ合

うというのがあるわけだから、これも考えなきゃいけないなど。やはり観光についても、学問的というの大げさだけれど、少し考え直さないといけない。いわゆるたき売りの観光をやっていたのではダメだという気がします。

ニュービジネス

三番目はニュービジネスで色々なものがありますが、表2(省略)。二〇〇五年三月二十五日付読売新聞参照)の「北海道内の大学発ベンチャーリスト」を見てください。私がニュービジネスと言ったときには二種類あります。一つは「コミュニティビジネス」といって、主婦の方が子育てが終わりましたとか、我々中高年が仕事の定年が少し早めになったとか、いろいろ働けるし、そしてアイデアもあるし行動も出来るという人々が始めるものです。第一の職場はお終いになったという人が、日本にはたくさんいます。二〇〇七年を過ぎると団塊の世代がそうなります。団塊の世代というのは一年に二五〇万人います。生まれたのが二五〇万人。全員が生きているわけじゃないだろうけれど、私の周りを見てもそんなに死んでいないからまだ二〇〇万人くらいはいるんじゃないか。その人たちがそんなに儲からなくてもいいから、世の中の為になんかことをしたいと思っている。資本主義だから皆が金儲けを考えているかという点、実はそんなことはないし、ある人が生涯、金儲けのことを考えているかという点、そんなことはありません。利潤原理から人間というのはやがて離れ

るんです。その離れた時にやるものを「コミュニティビジネス」と呼んでいます。そういうものが展開していくということは、社会にとって非常に良い事です。そういうビジネスの展開が一つある。こういうのはGDPにはあまり貢献しないけれど、人々の活性、元気な人を増やすという効果があり、町の元気になるといって、精神面の効果がかなりあります。北欧とかイギリスでは一生懸命こういうことをやっています。金儲けじゃない。NPOでもいい。日本のNPOは却って作るのが面倒で、なぜあんな法律を作ったのかなと思うのですが、そういう活動はかなり有効です。これはもうハイテクでなくても良い。だけど、それだけだと北海道という大きな経済を引っ張っていくことは出来ない。

やはりハイテク系のニュービジネスというのが必要なのです。少数だけれど必要なのです。これは誰がやるの。ハイテク系というのはなかなかやってみると大変。起業をする時には「人・物・金」といいます。人のことは一番難しいので後から言います。「金」は日本中にたくさんあります。おもしろそうなビジネスがあったら投資してみようという人はたくさんいます。東京でそういうファンドを集めると、何十億という資金が瞬時に集まります。それくらい日本は金あまり。しかも低金利だから、うすうす集まっているわけです。ちょっと増えそうな話があったら、わっと乗る。だからお金はあります。

問題は「物」というところですが、ハイテク企業に関しては、物に相当するのは原材料ではなくて技術なんです。ハイテク企業を育

てようというときには、この技術をどこから出すかが問題です。今から一〇年ぐらい前までは多くの大企業は研究所を持っていました。日立には九〇〇人の博士がいますという宣伝もしていました。東芝にもいくつか研究所があります。島津製作所の研究所に田中耕一さんはいたわけです。ところが九〇年代の不況で状況が変わった。研究所と名のついているものほど金食い虫はない、ということになった。大企業はそういうところを縮小しようとした。大企業に行った技術者は受難の時代です。行く先がなくなった研究所の人が連日大学先生になったと言って喜んでる時代です。

じゃあ誰が技術の研究をするのかとって世の中を見渡したときに、散々社会のお金を使っているながら、何にも世の中の役に立っていない集団が一つある。それは大学だ。大学の先生というのは、国家の目的がこうであって、今はこういうことが必要だから私はこういう研究をしよう、というように自分の研究を決めることはあまりない。俺はこれが好きだから。世の中がどうだろうと関係無い。そんなことは他のやつが考えればいいのだ。これが楽しいからやっているのだと。大体、本音はそうです。学問の世界はそれでいいという人もいるし、私もそうかなとも思うのです。日本が金持ちだった時はそれでいいでしょう。だけど世の中のことに多少目を向けた方がいいよね。大学の技術で何とかならないのという要望が、二〇〇〇年ごろから急に出てきました。

そういうときに引き合いに出すのはアメリカです。日本というの

は何でもアメリカです。今の民営化運動だってアメリカです。アメリカは公的セクターがすごく少なく、逆に民営セクターが大きいですから、アメリカに勉強しに行った人は皆、民営万能主義を信じて帰ってくるのです。留学組じゃない人は見学に行く。スタンフォード大学とハーバード大学。日本の学者というのはこの二つしか知らないんじゃないかと思うくらいせつせと日参して、お宅で開発した技術は産業にどのように生かされていますかと質問をする。両大学には、日本からの訪問客に対応するオフィスがちゃんとあって、すべてパンフレットが出来上がっていて、大学はこうですよと出す。それを見るとスタンフォード大学が作った会社が四〇〇社位あると書いてあります。ハーバードの場合も何百社ある。その中からパテント収入が入って、大学の収入のかなりの部分はそれで賄われている。本当かなと思うけれども、そういうことが宣伝されたのです。

大学発ベンチャー

日本はどうなっているかといったら、全然やっていませんから、経済産業大臣の平沼という人が出てきて、日本の大学でも企業を作ろうということになった。目標は五年間で一、〇〇〇社と言ったのです。□から出任せだと思っけれども、言ったらそれがそのまま「平沼プラン」となって国の方針になりました。それで二〇〇〇年の前後からいろいろなものが出来上がってきました。表2(省略)の「北海道内の大学発ベンチャーリスト」は、北海道で出来上がっ

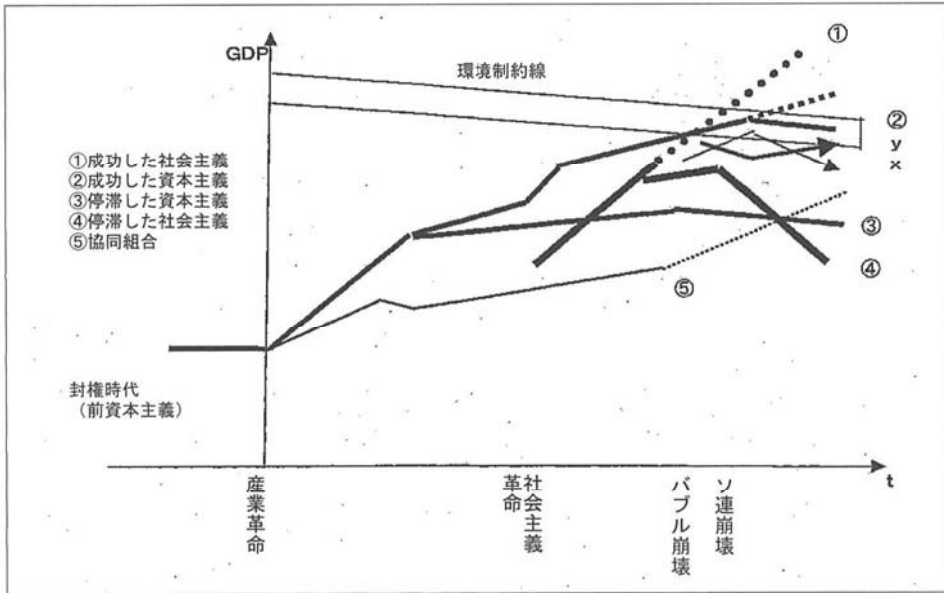
た、大学が関連した企業一覽表です。読売新聞が作って出したのですが、これを見ると実はこの会社は違つんじやないかなというのも入っていて、かなり幅広に勘定している。でも、でたらめではない。ともかくここに書いてあるような企業が出現した。大学がテクノロジー系の新しい会社を起すのを支えていく。二つのタイプの企業作りは、いまや各地で競争になっていきます。だから北海道にたくさん出来ていきますよということを見せなきゃいけない。これからは大体が競争予算ですから。今までのようにおしなべて全国に予算が降り注ぐという手法はもう出来ません。とにかくをやりたいやつは手を上げろということになる。

これが大学にとって良いことか悪いことかというのは、議論があると思います。大学というのは基礎研究をちゃんとやるべし。こんな浮かれた話じゃいけない、という人はいます。工学部のある先生が企業を作りたいというから、相談に行きます。これはこうやってああやって相談するけれども、中にはこういうことに批判的な人もいます。それはいいんです。大学の中心は基礎研究で良い。だと応用分野にも一定の理解を示してやっても良い。時代が動いているので、時代の風を利用するという意味でも、こういう運動はやっておいても良いだろう。北大が今二九。数年前まではゼロだったわけだから、よく出来たほうだと私は思っています。

そう思っていますが、半分は潰れる、と心配する人もいます。なぜか。人・物・金と言ったでしょう。金はあるんですよ。北大の先生

たちがある会社を作って宣伝する。いろいろあちこちで吹聴するわけです。こういう技術があつてすごいです、すごいです。そうすると金を出す人というのは結構出てきます。それから技術は大学から出ますね。だから物・金と揃います。問題は「人」。人って何かというと経営者です。十中八九と言つていいでしょうね。失敗するケースは大学の先生が社長になるケースです。話にならない状態になっているケースを私はいっぱい見えています。だから私は、「先生のアイデアは良いけれど、先生は社長になつちゃダメよ。先生は白衣が似合うからね」と。「白衣が似合う人はあまり社長にならないほうが宜しいんじゃないでしょうか」と言つても、「いや、俺、社長になりたいんだけど」と、がんばる人もいます。そういう場合には「何か席を作つてあげますから、そういうところに収まって下さい」という。会社の経営は大変です。人に頭を下げなきゃいけませんよ。先生は人に頭を下げるのは得意ですか「いや、俺はあまり得意じゃないな」「金を集めるときは、人にいろんな説明を一〇〇回くらいしなきゃいけませんよ。」「いや、授業でも一回しかやりたくない」とか、そういう反応だから大体ダメです。

社長というのは特別な資質がいるんです。大学発ベンチャーで一番欠けているのはこの経営者です。会社を作るといつて、いろいろなものが揃ってくる。技術、特許も取つた。金も集まっている。ベンチャーキャピタルが出してくれる。じゃあ社長をどうするんだと。日本というのは社長を見つけるのが大変。最大のネックがここです。



* 私たちの出口は狭い[x (日本)とy (アメリカ)の間]
作成: 北大経済学部・濱田研究室

図 11 人類の出口は狭い

人類の出口は狭い

大学発ベンチャーがたくさん出来たけれど、半分くらいがだめになって、それからやり直す、という将来シナリオもありえます。

今度は少し大きい話をします。図11のタイトルに「人類の出口は狭い」と書いてありますね。このことを皆さんにお話しておきたい。縦軸に大まかな世界のGDPを取って、横軸に、〇〇〇年くらいの時間を取っています。真中に線があつて途中から二股に分かれていますね。これが資本主義の線です。社会主義革命と下に書いてあるところから、これは実は赤い線で書いてあるのですが、伸びていつて途中で点線になっているのがありますね。これが社会主義の線です。下のほうの色の薄いのが協同組合系の線です。資本主義というのは産業革命から急速に発展した。角度が急だと発展が急だという意味です。途中から二股に分かれたというのは、先進国の線と発展途上国で停滞する線とに分かれたということです。発展途上国よりかなり下のレベルから社会主義革命が起きました。ロシアというのは当時世界の貧しい国の一つだった。そこから社会主義革命が起きて、うまく行ったら資本主義を突き抜けて優秀なパフォーマンスを示すだろうという期待だった。ところがこれがうまく行かなくて、途中で屈折して八九年のソ連崩壊という結末を迎えるわけです。

現在では、社会主義をやろうと言ってもそれは出来ない。社会主義という選択肢は破けてなくなっちゃったんです。当面人類は、資

本主義でやるよりしょうがない。

もう一つ、それは協同組合です。協同組合も資本主義の中で墮落したとは思いません。太田原先生も昔やっていたかもしれないけれど、北大生協の理事長をやってみて、やはり生協もかなり墮落した時期があると思う。コープさっぽろは今蘇りつつありますが、まだ累積債務がありますからね。完全に水面上に出たわけではない。しかし協同組合みたいなものが今、資本主義の下支えに入らなきゃいけないという構図になっていることは間違いない。

ただこの先進国ルート、一番上のほうの線です。これがどうやら屈折してしまったようです。屈折させたのは日本の躓きです。日本のバブル経済の躓きがこれを屈折させた。気がついてみたら、上から環境制約線というのが下がってきています。中国にがんばってもらおうと言っても、がんばられると、この環境制約線にぶつかるとひよっとすると人類絶滅問題まであるかなという深刻な問題になっている。環境制約線が上から抑えているでしょう。社会主義という札が一枚ないでしょう。協同組合の下から支える力がまだそんなに強くないでしょう。そして希望の星だった日本が屈折しています。そうすると、私達の今いる地点の出口が狭くなっている。これが近未来への世界認識です。ここをどうやって抜けていって、次の世代の人に渡してやるかということが私達の課題です。おそろく一、〇〇〇年の歴史的な使命を背負っているのです。

今日いろいろな方が集まっていると思いますけれど、仕事をす

る時にどうしよう、〇〇〇年時空を考えてみましょう。私は今それが求められているんだろうと思います。明日のことをあくせくとするのは当然しなければいけないけれども、この日本をどうやって設計するかと考えてみる。そしてこの北海道を。次の世代に、生き易くて未来が広がった世界を渡してやらなきゃいけない。偉そうなことを言いましたけれど、これは私がいつも理念としている所です。

寄生性

世界は少しおかしくなった。小泉さんは構造改革という言葉がたいへん好きで、折に触れ「構造改革、構造改革なくして成長なし」とか「回復なし」と言っていますが、実は聞いていると何が構造改革なのか良くわからないのです。民営化が構造改革だということになっているようですけれど、そうかな。それだったら皆ついでに行きそうなものだけでもね。本当の構造問題って何か？

日本は資本主義社会ですから、それが抱えている問題は何かなと考えた時に、私は「寄生性構造」という問題をいつも考えます。以下は別のところに書いた引用です。

「寄生」という言葉は寄生植物、寄生虫などに使われるが、他の何かに吸着して生存する様子を言う。さて、寄生性の反対語は創造性である。実は資本主義が発展した内的原動力はこの創造性である。人々を自由にし、利潤という目標に向かって障害なく進めるように解き放つたことがすべてであった。」まあ、人間を自由にした。だから

資本主義のことを言っている人は自由主義と言いますよね。「このことで人々はあらゆる方面で創造性を発揮してきたのである。ところが、この資本主義にも内在的な問題があった。それは、あまり創造的でない部分が創造的な部分に寄りかかって生きていくという傾向である。資本主義の初期にはこうした傾向はあまり目立たなかった。階級対立という問題を抱えつつも、資本主義が社会主義を上回って成長し続けたのは創造性が寄生性を凌駕していたからである。私達は、ちょうど逆の結果が旧社会主義国で生じたことをみている。生き残った社会主義国である中国のスローガンが改革解放であることは象徴的である。」どの程度個人を解放しているのか知りませんが、これも、「ところが資本主義社会の成熟とともに、寄生性が社会の表面に現れる。それがある限界を超えると経済は成長しなくなる。」(注1) 要するに寄生されている方が、どんどん太っている時は寄生虫がいたって気にならないんです。一緒に成長しちゃえばいいのだから。ところが低成長になると弊害が目立ってくる。それでなくても瘦せるかもしれない人間に寄生虫が入っているんだから。今の日本ってそうじゃないの。皆さんの周辺を良く見てください。そこにとっても優秀な企業があると、周りにそうでもない企業が取巻いている。職場の中で、この人は優秀で、働いているねという人がいると、そうでもない人が周りにいる。こういう現象を見ませんか。人間の社会だからしかたがないのだけれど、創造的な人の数が少なくなると、取巻いている方が大きくなってきた時に、社会は危ない

ことになる。今の日本は多分そういうことが起きているんじゃないか。これが本当の構造問題だ。ではどうするの？答えは簡単。創造性を取り戻す。創造的にやるということを我々は考えなければいけない。

一つ優秀な中小企業があると、大企業がそれを下請けにして寄生している。大が小に寄生するという関係もあるだろう。いろいろな創造的なものがあると、いわゆる儲かるやつの人に人が群がるという現象です。自然界では、寄生虫と宿主はうまく行っています。

「笑つ回虫」という本を読んだことがありますか。藤田紘一郎さんという人が書いた本です。それには回虫がいる人はアトピー性皮膚炎にならないと書いてあります。日本人は虫下しを飲んで寄生虫をみんな駆除したので、今の若い子ども達にアトピー性皮膚炎が多いという話を書いてある。動物界でも、カバに何とかという寄生虫がいるけれども、それはちゃんとある作用を持っている。植物にヤドリギというのが突き刺さっている。あれは栄養分を吸って生きていくけれど植物に有用なものを与えている。共生関係がある。

ところが経済の寄生性は吸う一方なんです。自然界のような相互依存関係は無い。経済の寄生性はもつと悪いことに、発展して政治的な世界の寄生性を作ったり文化的な世界の寄生性を作っていく。政治的な世界の寄生性なんて言われなくても分かる。文化的な方は、これは社会学者がよく言っていますが文化的にも寄生的な事象はあ。経済から政治へ、政治から社会へ、社会から文化へというふう

に、寄生性はだんだん世の中へ浸透し、深い部分へと進んでいく。

「いつになつていくと社会はかなり根底からおかしくなつていく。社会学者がこれを心配しています。彼らは私達を非難する。要するに一番最初に経済を悪くしたやつが悪い。経済学者が悪いんだ。今の若者の状態を見る。犯罪の増加を見る。自殺者の数を見る。社会の病理がいたるところに発現してきている。だから寄生性を脱却して創造的な世界を作るということは、ものすごく緊急な課題だということになる。この狭い所を抜けるというのが我々のすべき課題なのです。」

自立し！

ここで北海道はどうするか。北海道は、日本の中で創造性を日本に先駆けて示せるいい場所だと私は常々思っています。寒くて大変だけど、やはり北海道に住んで居たいなという何かがあるんです。北海道の創造性ということを皆で作っていきまじょうと、私は主張しています。全国でいろいろ議論していると、とにかくまず自立たなくてはいけない。九州も提案してくる。四国も提案してくる。東北も提案してくる。その中で「お、北海道の案がいい」と言われなければいけないわけだから、目立たなけりゃいけない。目立って「好い」と手を上げて北海道でやらせてほしいと言つ。ところが「お前二兆円の赤字だらう」と言われちゃうんだよね。そこである程度自立する努力をしないとダメ。親から今でも小遣いを貰っていますけれど、それでも親の為には結構役に立っているんですよ。明治以来北海道が日本に果たしてきた役割を考えて見て下

さい。誰の石炭を使っていたと思いますか。すごい古い話をいきなりするのだけれど、そこから辺まで遡らないと例が悪い当たらないというのも悲しい。だけど今北海道でも、一次産業の革新、観光産業の自立化、効率化、それからハイテク等のニュービジネスをやっていますよ。そして結びつけてやっていますよ。ＩＴの発展を農業に結びつける。ＩＴの発展を観光に結びつける。三者並列じゃなく、うまく絡み合つて平行して進めるということで北海道はやっていきますから、自立の努力はしていますと主張する。

最後に言わなきゃいけないことが、そういう北海道のいろいろな試みが日本の為になる、ということなんです。国民の為になるのですよ、ということと言わなきゃいけない。それを殺し文句にして主張する。皆さんも一次産業ということを考えておられると思いますが、とにかく東京での論戦に勝たなきゃいけない。北海道の中でわあわあ言っているもしょうがないので、とにかく北海道の農業をどうするという案を東京に持って行って、他の地域に無い独自性を示せるかどうか。そこが知恵の出所だと思っています。

当会には会長を始め頭脳集団がおられるわけですから、そういうところが何とかしてくれるでせうと、というのは寄生性なんです。自分で考えなきゃダメ。というわけで寄生性に陥らないようにがんばっていただきたいと思えます。ご静聴ありがとうございました。

注一：「北海道経済と創造性」ほっかいどう政策研究第15号2～3頁

後日談

小論は、郵政民営化問題が国会で大つめを向えていた六月末に行われた講演を紙面に構成したものです。その後、本文でも予想したとおり、自民党は事実上分裂し法案は参議院で否決されました。その後の顛末はご承知のとおりですが、小泉大勝に少々驚いているのは私も同様です。

今回は普段あまり選挙に関心のない浮動層が自民党を支持したようです。私の周辺の若い人に聞いても自民党に投票した人が多いようです。若い人々の多くはこの世の閉塞感にうんざりしていて、その分「改革」というスローガンに敏感に反応したのでしょう。明らかに小泉総理大臣の作戦勝ちで、年金という地味なテーマを掲げた民主党の戦略ミスでしょう。

でも、本当の改革とはなんなのでしょう。本丸といわれているものが実はそうでないのは多くの人が承知しているのです。それは、わかり易いから使ったままで。そういう意味では郵政の人々は大変な目に会ってしまった訳で、同情しています。

絶対多数におつりが来るくらいのものでできる政権が日本のために何をやってくれるのか、今となつては静かに期待するよりありません。当選した人々の顔ぶれをみると、刺客も言めて医師資格のない人に外科手術のメスを持たせたようにもみえます。とり返しのつかない重大な医療ミスがおきない事を祈っています。

二〇〇五年九月二三日 記

